OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	癌と人　第4号　目次
Author(s)	
Citation	癌と人. 1976, 4
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24232
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

第4号　目　次

ご挨拶……1
理事長　釜　洞　醇太郎

インターフェロン物語……2
理事　川　俣　順　一

ガン…これだけは知っておこう……6
1．ガンの正体……7
常任理事　田　口　鐵　男

2．胃ガン……10
藤　田　昌　英

3．肺ガン……12
高　見　元　敞

4．子宮ガン……16
早　川　謙　一

5．乳ガン……19
中　野　陽　典

6．悪性リンパ腫……21
薄　金　眞　雄

財団法人大阪癌研究会寄附行為……23

大阪癌研究会役員・評議員・賛助会員名簿……26

＊ 表紙絵解説

「蟹」のいわれ

蟹の絵は阪大微研の川俣教授にお願いして描いてもらったものである。

癌に関係ある学会のシンボルマークに蟹の図案化したものがよく用いられている。

癌と蟹の関係の歴史は遠くギリシャ時代にさかのぼる。ギリシャの医聖ヒポクラテス著述のところどころに，今日私どもがいう癌と思われる記録がある。ヒポクラテスはそれを「カルキノス」と呼んでいる。カルキノスというのは日常一般に用いられていた言葉で，蟹のことである。ヒポクラテスが記述しているという病気（癌）の格好が蟹に似ていたのでそれを呼び名とした。

今日，欧米では日本でいう癌をカルチノーマと呼んでいる。それはカルキノスという言葉からきたもので，両者は同義語である。

ヒポクラテスはカルキノス（蟹）という日常語を純然たる医学語とした人である。癌と蟹の関係はそれ以来続いている。